

2023年7月27日～28日に函館水産試験場試験調査船「金星丸」で噴火湾環境調査を実施しました。噴火湾周辺海域の水温・塩分・溶存酸素の観測結果をお知らせします。なお、今回の調査結果を以前の結果と比較する際は、今回の調査結果を「2023年8月」の結果としています。
(函館水産試験場のHPからもご覧頂けます <http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/hakodate/>)

【水温の鉛直分布】

湾内の表層（深度5m層）の水温は19～23℃台で、概ね昨年と同様でした。一方で湾内の深度10～40mの水温は6～20℃台で、昨年および一昨年よりも1～7℃ほど低くなっていました。また、深度5mの水温は19～23℃台であり、湾外では昨年よりもやや高くなっていました。

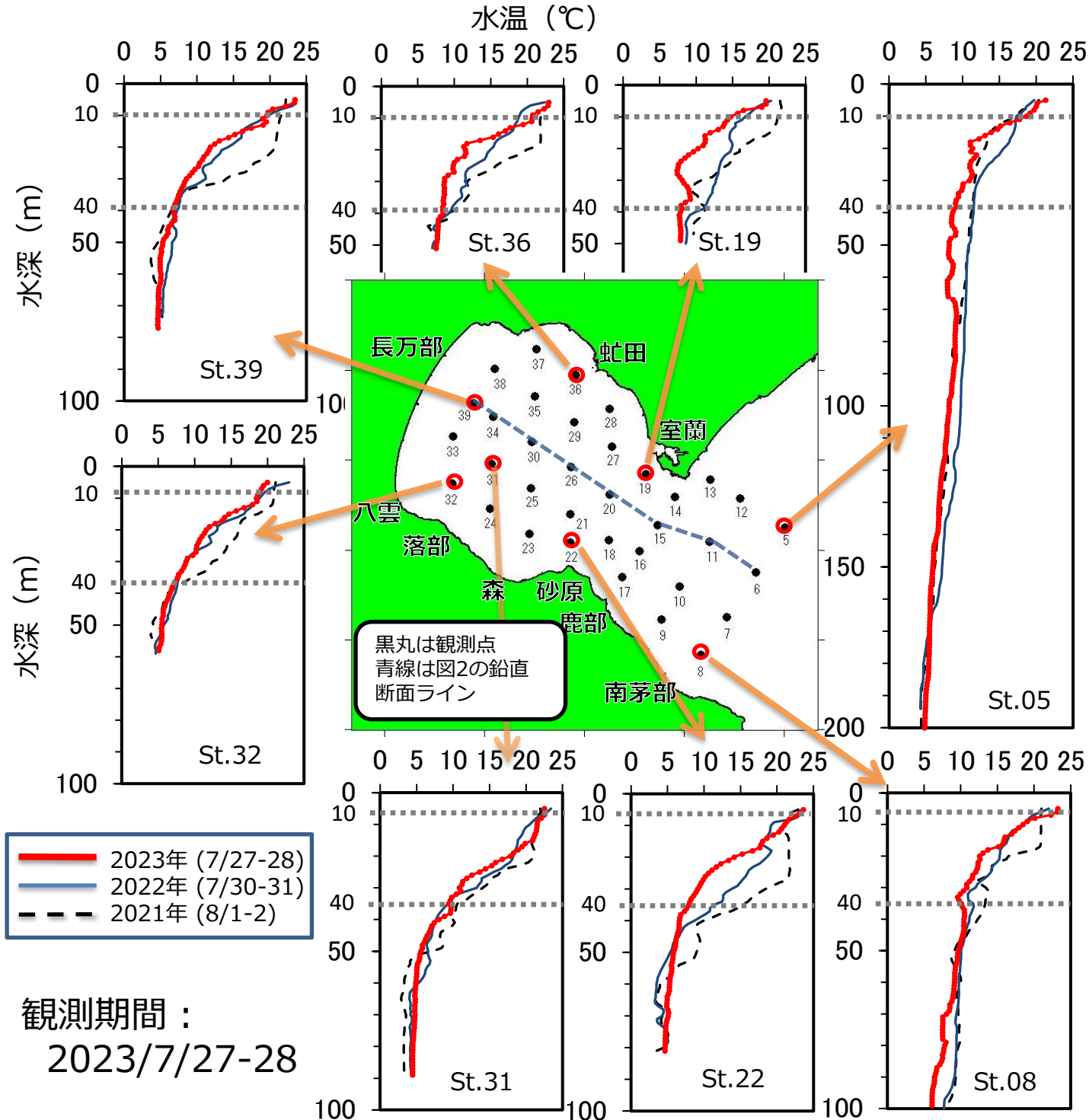


図1 噴火湾各地先の水温の鉛直分布

【水温，塩分，溶存酸素の鉛直断面分布…7月と8月の比較】

- ・8月の湾内の深度10m以浅の水温は20℃以上で，7月よりも1～5℃高くなっていました。また，深度50m以深は概ね7℃以下で8月よりも1～2℃高くなっていました（図2上段）。
- ・津軽暖流水（水温6℃以上，塩分33.6以上）は7月には噴火湾外から湾口にかけて分布していましたが，8月の調査では湾外の水深20-40m層に後退しており，湾内へ流入していないとみられます（図2上・中段）。
- ・また，湾内の底層付近には7月に引き続き貧酸素水（3ml/L以下）が分布しています（図2下段）。

夏季の湾内における貧酸素解消に必要な津軽暖流水の流入が確認されていません。今後も流入が無い場合は貧酸素状態が継続する可能性があります。

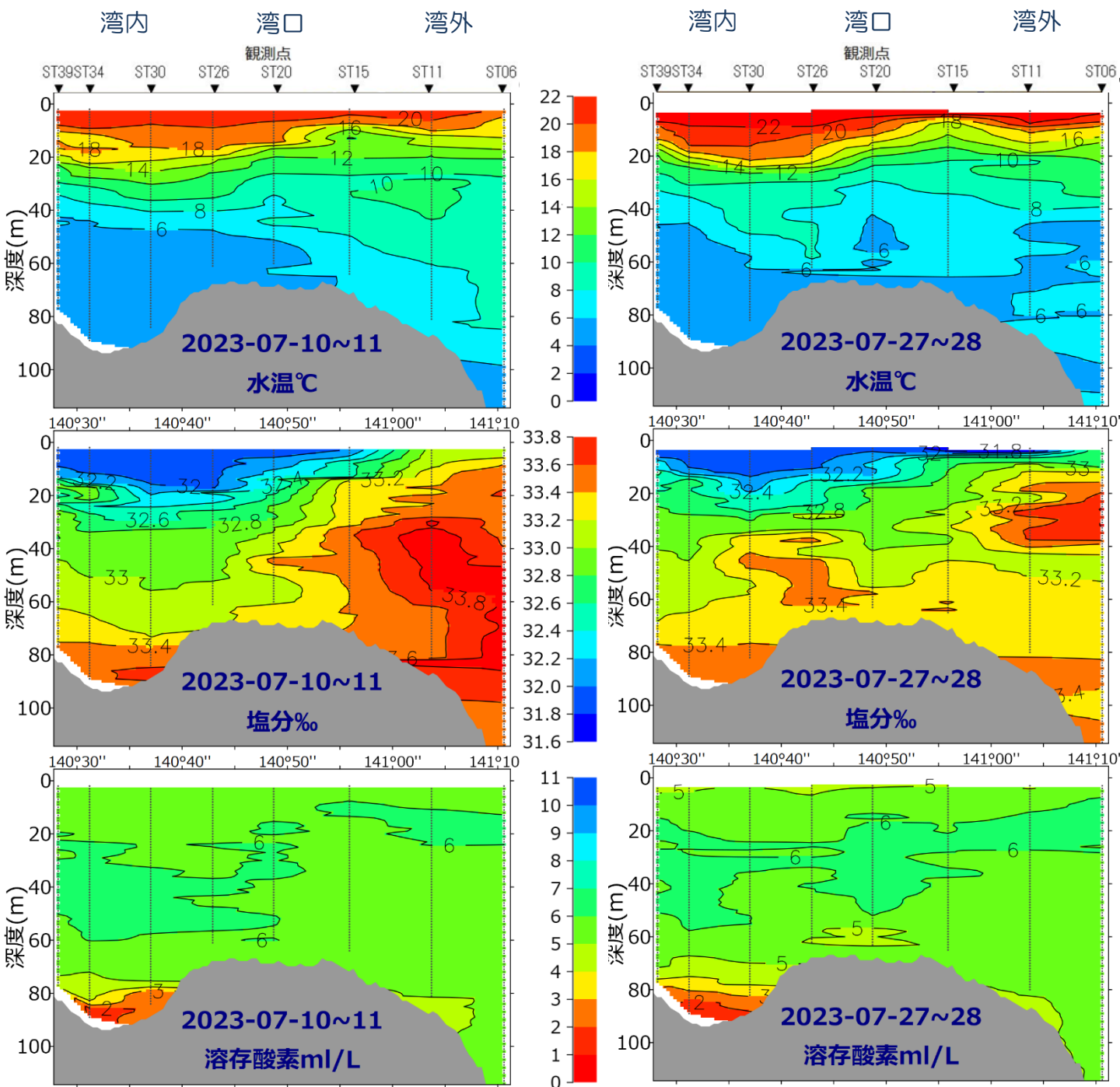


図2 水温・塩分の鉛直断面図（左：7月，右：8月）
鉛直断面の位置は図1の青破線を参照 上部の▼は観測点